

大会名	第18回関東実業団・関東大学バスケットボールオールスター対抗戦			
	期日	平成27年12月19日(土)	会場	エスフォルタアリーナ八王子
	男子			
関東実業団選抜 ●	73	23 - 22 12 - 31 16 - 22 22 - 23	98	○ 関東大学選抜
主審: 細田 知宏		副審: 平山 智章		

関東実業団選抜と関東大学選抜のオールスターゲーム。第1ピリオド、両者持ち前のスタイルを生かしたプレイが目立ち互角の戦いを見せる。しかし、第2ピリオドに入ると大学選抜の勢いが猛威を振るう。堅守速攻に加えアウトサイドシュートの精度が高まり、一気に大幅なリードを奪う。後半に入ってもその勢いは留まることを知らず、着実に加点、リードを広げる。多彩な攻撃と堅守が目立った大学選抜が98-73でオールスターゲームを解消で締めくくった。

第1ピリオド、実業団選抜は、外角のシュートを中心にオフェンスを展開。対する大学選抜は東海大#45頓宮のインサイドが決まると、筑波大#17杉浦、東海大#0ペンドラメがドライブで相手を切り裂きテンポよく加点。終始取られたら取り返すといった互角の戦いを見せ、23-22で実業団選抜が僅かにリードし第1ピリオド終了。

第2ピリオド、開始から大学選抜は堅い守りからトランジションオフェンスを展開し、リードを一気に奪う。対する実業団選抜は、日本無線#1福田が巧みな個人技でファウルを誘い、フリースローを獲得するも後が続かず。二桁に点差が開いたところで実業団選抜はタイムアウトを請求。その後タイトなディフェンスを敷き、巻き返しを図るも、大学選抜の多彩な攻撃を止めることができず、53-35と大学選抜が大量リードを得て第2ピリオド終了。

第3ピリオド、大学選抜は東海大#0ペンドラメ、拓殖大#0岡本のガード陣が攻守に渡り活躍し、相手を翻弄する。一方の実業団選抜は序盤、相手のハードディフェンスに苦しむも、中盤以降、日本無線#1福田の華麗な1on1を起点に攻め込み立て直しを図る。しかし、相手の得点を簡単に許してしまい反撃には至らない。75-51で大学選抜のリードは変わらず第3ピリオド終了。

第4ピリオド、序盤、大学選抜は青山学院大#24安藤、筑波大#17杉浦の3Pシュートが連続で決まるのに加え、筑波大#6馬場のダンクが飛び出し、変わらず試合を優位に進める。一方の実業団選抜は、リバウンドに喰らいつきセカンドチャンスを得るも、なかなか決めきれず、苦しい時間は続く。その間も大学選抜は攻撃の手を緩めることなく98-73で大学選抜が力を見せつけ勝利をおさめた。

No	NAME	所属	PT	3P	2P	FT	F
0	田野 司	黒田電気	9	3	0	0	3
1	福田 大佑	日本無線	11	0	4	3	0
2	福田 侑介	日本無線	3	1	0	0	2
4	高崎 陽平	新生紙パルプ商事	4	1	0	1	1
6	高田 歳也	新生紙パルプ商事	4	0	2	0	2
7	吉留 将平	黒田電気	2	0	1	0	0
8	佐々木 陽	曙ブレーキ工業	10	2	2	0	2
9	小野寺 翔	黒田電気	2	0	1	0	1
9	小林 純也	日本無線	3	1	0	0	0
10	皆川 徹	富士通	4	0	2	0	2
15	田中 洋貴	曙ブレーキ工業	9	1	2	2	2
15	梅林 聡貴	三井住友銀行	8	1	2	1	0
34	三浦 洋平	富士通	0	0	0	0	0
87	河本 裕一	曙ブレーキ工業	4	0	2	0	1
HC	藤本 靖章	黒田電気	0	0	0	0	0
計			73	10	18	7	16

No	NAME	所属	PT	3P	2P	FT	F
0	ペンドラメ 礼生	東海大学	13	0	4	5	2
21	橋本 晃佑	東海大学	8	1	2	1	0
45	頓宮 裕人	東海大学	10	0	5	0	0
92	村越 圭佑	筑波大学	4	0	2	0	2
2	満田丈太郎	筑波大学	3	1	0	0	2
6	馬場 雄大	筑波大学	7	0	3	1	2
17	杉浦 佑成	筑波大学	15	3	3	0	1
0	岡本 飛竜	拓殖大学	7	0	2	3	0
99	赤石 遼介	拓殖大学	4	0	2	0	1
24	安藤 周人	青山学院大学	12	4	0	0	1
6	渡辺竜之佑	専修大学	15	1	6	0	2
HC	池内 泰明	拓殖大学	0	0	0	0	0
計			98	10	29	10	13

関東実業団バスケットボール連盟
 関東大学バスケットボール連盟
 関東大学女子バスケットボール連盟